

御 挨拶

京都府高等学校体育連盟
両丹支部長 田邊 仁司
(京都府立西舞鶴高等学校長)

令和5年度京都府高等学校体育連盟「高体連誌第63号」の発行にあたり、御挨拶申し上げます。
両丹支部各加盟校及び各専門部の皆様をはじめ、各競技団体並びに関係諸機関の皆様には、本支部の活動に御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。この間、格別の御指導と御支援をいただきました村上昌司会長をはじめとして、本部事務局、関係のすべての皆様に心より感謝を申し上げます。

最近の府立高校再編による学校数の増減により、現在の両丹支部加盟校は、全日制課程において15校、定時制通信制課程で6校となっております。学校によっては、また種目によっては、生徒数の減少や運動部加入率の低下により、運動部員の確保が難しくなっております。そのような中、熱心に指導いただいております各校の顧問の先生方にはあらためて御礼を申し上げます。

さて、本年度は、事務局の主な事業として、5月20日に第75回両丹高等学校総合体育大会、6月11日に一般生徒対象事業（プロ野球観戦、京セラドーム）、9月16日に第74回両丹高等学校定時制通信制総合体育大会を実施しました。事業を中止せざるを得ない状況に直面していた数年前のことを思うと、計画した事業を予定どおりに実施することができたことに対して、感謝の意を表したいと思います。数年間の中断期間があっても、私たちは困難や課題を克服し、進化することができたと感じております。また、各専門部の事業におきましても、ほぼ計画どおりに実施することができました。

本年度も、多くの両丹地域の選手たちが、全国大会や近畿大会、それらに繋がる大会で活躍してくれました。全国高等学校総合体育大会（夏、7月21日～8月21日）においては、新体操競技男子個人総合・リングで丹後緑風高校の谷口央弥選手が、レスリング競技女子47kg級で海洋高校の升田夏実選手、同50kg級で丹後緑風高校の坂根海琉子選手が、ウエイトリフティング競技男子55kg級で海洋高校の泊幸太郎選手、同81kg級で同校の東楽映選手、同102kg級で同校の辰巳航大選手、同女子55kg級で同校の川崎菜々紗選手、同76kg級で宮津天橋高校の長島和奏選手が、見事に日本一に輝くなど素晴らしい結果を残しました。

また、定時制通信制課程においても、卓球競技、ソフトテニス競技、陸上競技で清新高校や西舞鶴高校の選手が全国大会に出場しました。これらの選手をはじめとして両丹地域の多くの選手が、熱心に競技に取り組み、大会で力を発揮してくれたことは選手たちの努力の成果であることは言うまでもありませんが、各校で御指導いただいた顧問の先生方、大会を運営いただいた専門部の皆様の御尽力の賜であると、深く感謝申し上げます。

2024年夏には、パリでオリンピック・パラリンピックが開催されます。世界の大舞台で活躍する日本選手や世界のトップアスリートの姿が我々に感動や興奮、勇気を与えてくれることと思います。そして、高校生だけでなく、すべての世代でよりいっそうスポーツ熱が高まっていくことと思います。さらには、刺激を受けた高校生たちが、さらに技を磨き、人間力をも高めてくれることを期待しております。

結びにあたり、今後も両丹支部の活動に御理解と御支援をいただきますようお願い申し上げ、御挨拶とさせていただきます。